

茨 城 県

保幼小接続カリキュラム

家庭教育の視点 ^{ぶらす} 十



一人一人が輝くために



～ 子どもたちの自主性・自立性を育もう ～

平成30年3月
茨城県教育委員会

幼児教育とは

「環境を通して行う教育」を基本とし、幼児の自発的な活動としての遊びを中心とした生活を通して、一人一人に応じた総合的な指導を行います。

近年、国際的にも自尊心や忍耐力、自己制御といった社会情動的スキルやいわゆる非認知的能力といったものを幼児期に身に付けることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるということが研究から明らかになってきました。こうした流れを受けて、全ての子どもが健やかに成長することができるよう、質の高い幼児教育を提供することが一層求められています。

幼児教育から小学校教育へ

現在、幼児教育と小学校教育との接続については、次のようなことが指摘されています。

- 幼児教育と小学校教育との接続では、子ども同士や保育者・教員の交流は進んでいるものの、カリキュラムの接続が十分であるとは言えない状況がある。
- 遊びや生活を中心とする幼児教育と、教科等の学習を中心とする小学校教育とでは、教育の内容や方法が異なるため、それが大きな段差となって、スムーズに適応できない児童がいる。

こうした状況の中、幼児教育と小学校教育における教育内容や方法を十分理解した上で、保育者は「今の学びがどのように育っていくのか」を、小学校の教員は「今の学びがどのように育ってきたのか」を見通した全体的な計画（教育課程を含む）及び教育課程の編成・実施が求められます。

その際、保育者や小学校の教員は、それぞれ発達の段階を踏まえて保育・教育を充実させることが重要であり、一方が他方に合わせるものではないことに留意する必要があります。

そこで、接続カリキュラムが必要になります

接続カリキュラムとは、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図るために作られるカリキュラムのことです。小学校教育に向かう幼児期の全体的な計画（教育課程を含む）【アプローチカリキュラム】と、幼児教育との円滑な接続を意識した小学校入学時の教育課程【スタートカリキュラム】を合わせ、幼児期と児童期の「学び」をつなぎます。



アプローチカリキュラム作成のポイント

■ 保育の工夫

遊びや生活を通して、協同的な学びが十分に培われるように、協同的な遊びや体験が充実するように配慮する。

■ 時間の工夫

見通しをもって生活しようとする子どもたちを支えるために、時計を見ながら時間を意識できるように配慮する。

■ 円滑な接続に向けて

- ・ 小学校見学や小学生との交流の機会を設ける。
- ・ 時間内に昼食を食べ終わる意識をもたせる。
- ・ 様々なトイレに慣れておく。
- ・ 道路を歩く際に、危険な場所の確認や道路の横断の練習をする。
- ・ 当番活動等で、人前で話す活動を取り入れたり、手伝いをする事で感謝されたりする体験の機会を増やす。



■ 家庭との連携

基本的な生活習慣、生活リズム、食事のマナー、安全に過ごす生活の仕方（交通ルール等）など、保護者との連携を図りながら確認する。

幼児期に育てほしい子どもの姿

カリキュラムの項目の番号と下の姿の番号は一致しています。

茨城県では、就学前教育・家庭教育推進ビジョンを策定しました。その中で、保育所保育指針、幼稚園教育要領等に示された「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を踏まえ、家庭教育の視点を加え、「幼児期に育てほしい子どもの姿」を次の7つの項目に整理しました。ぜひ、保護者と共有してください。

- ① 健康な心と体で豊かに遊ぶ子ども
- ② 自分のことを自分で行おうとする子ども
- ③ 早寝早起き朝ごはんなどの生活習慣を身に付け、あいさつのできる子ども
- ④ 自然と触れ合い、命を大切にする子ども
- ⑤ 自分や家族を大切にしながら他者を思いやるとともに、約束やルールを守ろうとする子ども
- ⑥ 生活や遊びを通じた物事（物の性質や数量、図形、文字、標識等）への関心・感覚をもつ子ども
- ⑦ 豊かな感性とそれを表現できる言葉などをもち、自分の考えや思いを様々な方法で伝えようとする子ども

茨城県就学前教育・家庭教育推進ビジョン

検索

茨城県保幼小接

【このカリキュラムについて】

この保幼小接続カリキュラムは、幼児教育に携わる保育者及び小学校教育に携わる教員等が日々の教育に携わります。特に幼児教育における記述は到達目標ではなく、その姿の育成に向けた教育・保育の方向性を示します。

		幼児期（5歳児夏頃）	幼児期の終わり
学びに向かう力	主体的に学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ○興味のあることに進んで取り組む中で、試したり工夫したりしながら遊びを深めようとする。12 ○生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを言葉や絵、音楽、動きなど、いろいろな方法で表現することを楽しむ。 ○自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化や不思議さ等を感じとり、身近な事象への関心を高める。4 ○読み聞かせを楽しんだり、自分で本を読んで想像を広げたりする。67 ○自ら十分に体を動かす心地よさを味わい、繰り返ししたり、挑戦したりして、自分の力を発揮しようとする。1 	
	人と関わりながら学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の感じたことや考えたことを相手に分かるように言葉で伝えたり、相手の話をよく聞いたりして遊ぶ楽しさを味わう。7 ○友達の考えに触れることで、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の見方や考えを広げようとする。7 ○共通の目的に向かって、協力して遊びや活動を進める。5 	
	数量、図形、文字への関心	<ul style="list-style-type: none"> ○生活や遊びの中で、文字に興味・関心をもち、文字を使う楽しさや相手に伝える面白さに気付く。67 ○生活や遊びの中で、数えたり、比べたり、組み合わせたりすることを通して、数量や図形などに関する感覚を養い、興味・関心を高める。 	
生活上の自立	規則正しい生活	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら身支度をしようとする。（衣服をきちんと畳む、ボタンの掛け外しや紐を結び、立ったまま靴の着脱をする） ○食事のマナーを守って楽しく食べようとする。（時間を意識する、箸を正しく持つ、よく噛む等） ○自分の持ち物の整理整頓をしようとする。2 	<ul style="list-style-type: none"> ■「早寝早起き朝」 ■一日の流れや時間
	健康で安全な生活	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りを清潔にし、衛生面に気を付けようとする。（うがい・手洗い、咳やくしゃみを人に向けない、自分で気付いて鼻を拭く） ○食べ物に関心をもち、好き嫌いをなく食べようとする。1 ○公共の場でのトイレの使い方を身に付ける。（和式トイレに慣れる、ノックをしてから入る） ○自分の身を自分で守ろうとする。（遊具を安全に使う、交通ルールを守る、不審者や災害時の対応を学ぶ） 	
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な人々に親しみをもち、役に立つ喜びを感じるようになる。5 ○あいさつや返事を進めようとする。3 ○姿勢を意識して、最後まで人の話を聞こうとする。2 ○自分の物と友達の物を区別でき、どちらも大切にしようとする。5 	
心の成長	自身の心の成長	<ul style="list-style-type: none"> ○自信をもって、意欲的に活動に取り組もうとする。17 ○最後まであきらめずにやり遂げようとする。2 ○さまりの必要性を理解し、約束を守って行動しようとする。5 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分なりの目標
	人との関わりを通じた心の成長	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで友達と関わり、互いのよさを認め合おうとする。5 ○思いやりの心をもって人と接しようとする。45 ○身近な人に感謝の気持ちをもつようになる。5 ○仲間意識を高め、つながりを深めようとする。5 	<ul style="list-style-type: none"> ○の中の数字は、「就学前教育・家庭教育推進ビジョン」の中の「幼児期に育ってほしい子どもの姿」の7つの姿の番号と一致しています。
	様々な経験に基づく心の成長	<ul style="list-style-type: none"> ○共通の目的をもって遊びや活動を進め、充実感や達成感を味わう。67 ○就学することへ期待をもち、自分の成長に自信と自覚がもてるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■動植物の世話等の体験

保護者と共有したい家庭教育の視点

「早寝早起き朝ごはん」の生活リズムをつくりましょう。

ひよこ p.8,12,16
ブック p.25,28

定期予防接種や定期健診を受け、健康で安全な生活を送れるようにしましょう。

ひよこ p.15, 17
ブック p.32

家族で食事を楽しみ、食の大切さを伝えましょう。

ひよこ p.12,16
ブック p.28

お手本を示し、あいさつや返事の習慣をつけさせましょう。

ひよこ p.7,16
ブック p.28

続カリキュラム ●



育・保育に生かしてもらうために作成したものです。カリキュラムは、具体的な子どもの姿で記述してあります。

【記号の見方 ○：幼児期で目指す姿 □：児童期で目指す姿 ■：幼児期と児童期を通して目指す姿】

小学校入学期	1学期の終わり
<input type="checkbox"/> 小学校での過ごし方（生活のリズムや場所など）に慣れ、楽しく学校生活を送ろうとする。 <input type="checkbox"/> 学習や生活の中の様々な課題の解決に向けて主体的に取り組もうとする。 <input type="checkbox"/> 幼児期の教育を通して育まれた力を生かして、いろいろな方法で自分らしく表現しようとする。（全教科）	
<input type="checkbox"/> 学校の動植物や身近な自然に触れ、その美しさ・不思議さ・四季の移り変わり等から感じたことや気付いたことを表現しようとする。（国語・生活） <input type="checkbox"/> 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読んだり、読み聞かせを聞いたりする。 <input type="checkbox"/> いろいろな運動や新しい体の動きに興味をもち、楽しんで挑戦しようとする。（体育） <input type="checkbox"/> 絵や図、言葉や文で、自分の思いや考えを表現し、互いの考えを聞き合いながら学習や活動を進めようとする。 <input type="checkbox"/> 相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりする。	
<input type="checkbox"/> 新しい友達と進んで関わり、互いのよさを生かしながら学習に取り組もうとする。 <input type="checkbox"/> 友達と話し合いながら自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりしようとする。 <input type="checkbox"/> 鉛筆の持ち方に気を付け、丁寧に自分の名前やひらがなを書こうとする。（国語） <input type="checkbox"/> 言葉のまとまりを意識してひらがなを読んだり、書いたりしようとする。（国語） <input type="checkbox"/> いろいろな観点を基に仲間集めをする。（算数） <input type="checkbox"/> 10までの数を数えたり数字を読んだり、順番や物の位置を数で表したりする。（算数）	
<input type="checkbox"/> 「ごはん」の生活リズムを身に付ける。③ <input type="checkbox"/> 問題を意識し、見通しをもって生活しようとする。② <input type="checkbox"/> 等）② <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> をかむ 等）① <input type="checkbox"/> 等）① <input type="checkbox"/> 知る 等）①	<input type="checkbox"/> 場にに合わせて身支度をしようとする。（給食着や雨具の後始末をする 等） <input type="checkbox"/> 食事の大切さを学び、給食の配膳や後片付けができ、給食を楽しむ。 <input type="checkbox"/> 学習用具の準備や後片付けなど、自分のことが自分で行えるようになる。 <input type="checkbox"/> 休み時間には屋外で遊ぶなど、丈夫な体をつくり、病気の予防に努めるようになる。 <input type="checkbox"/> いろいろな食べ物や栄養に関心をもち、好き嫌いをなく食べようとする。 <input type="checkbox"/> 施設や公共の場所のルールやマナーを守るようになる。 <input type="checkbox"/> 危険を予測して、自分や友達を守ろうとする。 <input type="checkbox"/> 集団の一員として、適切に行動しようとする。 <input type="checkbox"/> 気持ちのよいあいさつや返事、相手考えた言葉遣いを心掛ける。 <input type="checkbox"/> 話を落ち着いて最後まで聞くようになる。 <input type="checkbox"/> 自分の物だけでなく他の物も大事にしようとする。 <input type="checkbox"/> 新しい学習や活動に、意欲的に取り組もうとする。 <input type="checkbox"/> をもって進んで挑戦しようとする。② <input type="checkbox"/> 思うようにいなくても、くじけずに取り組もうとする。 <input type="checkbox"/> 学校の約束やきまりを知り、よいことと悪いことを考えながら行動しようとする。 <input type="checkbox"/> 友達と一緒に活動する中で、お互いを理解し、仲良く助け合おうとする。 <input type="checkbox"/> トラブルになったときに、自分たちで解決しようとする。 <input type="checkbox"/> 自分のことを大切に、相手のことも大切にしようとする。 <input type="checkbox"/> 新しい友達や先生、上級生や地域の人々など、様々な人と触れ合うことを楽しみにする。 <input type="checkbox"/> 学校生活を支えている人に関心をもって関わり、感謝の気持ちをもつ。 <input type="checkbox"/> 新しい友達と仲良く助け合おうとする。 <input type="checkbox"/> 検活動を通して、命を大切にすることを学ぶようになる。④ <input type="checkbox"/> 友達と協力して活動する楽しさを味わう。 <input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> 幼児期の教育を通して身に付けたことを生かしながら学習や生活をしようとする。

幼児期や児童期の中で、比較的早期に見受けられる姿かどうか、幼児期や児童期の1学期のそれぞれの終わりごろまでに見られればよい姿かどうか等、育ちの時期を考慮して文頭の位置を変えています。

※ 「ひよこ」は『家庭教育ブック ひよこ』、「ブック」は『家庭教育ブック』を指します。

自分のことは自分でできるように、温かく見守りましょう。
ブック p.11,28

多くの自然体験や生活体験の機会をつくり、子どもとともに楽しみましょう。
ひよこ p.13,16
ブック p.17,18

読み聞かせをして、子どもと一緒に時間を過ごしましょう。
ひよこ p.10
ひよこ「読み聞かせ貯金通帳」

メディアとの接し方を考えて、家庭のルールをつくりましょう。
ひよこ p.11
ブック p.26,27

積極的にお手伝いをさせ、たくさんほめてあげましょう。
ひよこ p.14
ブック p.18

豊かな心を育みましょう～

全職員で共通理解を！
 幼児教育施設の先生と
 相談しながら作成しましょう。

スタートカリキュラム作成のポイント（入学式から1週間）

● 今週の目標を設定する

スモールステップの目標を設定することで、段階的に学校生活に慣れていけるように考えます。

■ 時間割や学習活動を工夫する

子どもの実態に合わせて、例えば10～15分程度のモジュールで時間割を構成したり、体験的・操作的な活動を取り入れたりするような工夫が考えられます。

◆ 生活科を中心とした、総合的・関連的指導を意識する

子どもが自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるようにします。各教科のねらいを関連付けて考え、学習活動を構成するようにします。

♥ 家庭との連携を図る

懇談会や学年だより、連絡帳などで、学校の様子を知らせたり、連絡を取ったりするなど連携を図ることで、保護者の安心感や信頼感につながるようにします。

第1週の目標

- 学校という環境に慣れ、教師や友達と遊びや生活を楽しむ。
- 幼児期の体験を生かし、「できる」という気持ちを支えにして、学校生活に必要なきまりや約束を少しずつ覚えながら、安心感をもって活動や学習に取り組む。

	4月6日(月)	4月7日(火)	4月8日(水)	4月9日(木)	4月10日(金)
朝		荷物の片付け	片付け・読み聞かせ ▲	片付け・校歌指導	片付け・校歌指導・朝の会
1	学活 元気にあいさつ ・返事の仕方を学ぶ。	学活・国語 どうぞよろしく ・教室の使い方を知る。 ・自分を知ってもらうとともに友達のことも知る。	国語 自分の名前をかこう ・正しい鉛筆の持ち方と書く姿勢を学ぶ。	学校行事 大きくなったかな ・着替えの仕方を学ぶ。 ・並び方を知る。	生活・国語 友達をつくろう ・名刺を交換することで友達の大切さを知る。 ・友達の名前を知ったり、親しみをもったりする。
	学校行事 入学式	学活・生活 学校のことを知ろう ・トイレや手洗い場、靴箱の使い方を学ぶ。	算数・図工 なかまあつめ ・描いた作品が仲間分けできることを知る。	体育(学年) 校庭をたんけんしよう ・遊具で遊ぶことを通して順番やきまりを守って遊べるようにする。	算数 なかまあつめと数 ・仲間集めを通して、数字の書き方を学ぶ。
3	学活 ○○小の仲間入り ・担任の名前を知る。 ・友達を知る。	国語・図工 なかまづくりしよう ・話の聞き方や友達の呼び方を学ぶ。 すきなものいっぱい ・絵の描き方を学ぶ。	音楽(学年) みんなであたおう ・友達と楽しく歌ったり手遊びをしたりすることで歌に親しむ。	算数 なかまあつめ ・カードの絵やブロックを使って集合の意味を知る。	音楽・国語(学年) みんなであたおう ・知っている歌や手遊びを楽しむ。 ・読み聞かせを楽しむ。
	11:30 下校	学活 たのしいきゅうしょく ・給食着の着替え方や給食の配膳の仕方を学ぶ。	生活 学校をたんけんしよう ・廊下の歩き方や特別教室の使い方を学ぶ。	国語 どうぞよろしく ・ひらがなを学ぶ。 ・読み聞かせを楽しむ。	生活・国語 どうぞよろしく ・自分を知ってもらうとともに友達のことも知る。 ・ひらがなを学ぶ。
5		学活 学校のことを知ろう ・下校の仕方を学ぶ。	学活 学校のことを知ろう ・校歌を知る。	学活 みんなの仕事 ・日直の仕事や朝の会・帰りの会のやり方を知る。	図工 すきなものいっぱい ・想像したことを表現しようとする。
	下校	通常の下校時刻より早めに下校することもある。学年で下校班を編成し、職員に見守られながら下校する。学童保育などを利用する児童がいるので、家庭と連携を密にし、下校先等の確認を確実にする。			

▲ 安心して学べる環境を整える

見通しをもって活動できるような掲示物や、シンプルで分かりやすい教室環境を意識します。手遊びや読み聞かせなど幼児期に親しんできた活動を取り入れることで、安心感をもてるようにします。朝の活動、給食や清掃の支援など、担任以外の先生や上級生と関わることで、みんなに見守られていることを実感できるようにします。

★ 子どもの成長の姿や幼児期の経験を、学習活動や生活に生かす

子どもの成長の姿や、幼児期に親しんできた好きな歌、絵本、遊びやダンス、楽器や道具の使用など、活動の様子について事前に情報を収集し、学習や生活に取り入れるとよいでしょう。安心して活動や生活を楽しめるようにすることで、自分の力を発揮し、主体的に活動できるようにしていきます。

幼児教育と小学校教育が円滑に接続されれば…

- 子どもたちが、安心して生活をスタートすることができます。
- 子どもたちが、主体的かつ意欲的に授業に取り組むことができます。
- 子どもたちが、落ち着いて活動に取り組むことができます。

子どもたちが、より楽しい学校生活を送ることができます。

幼児教育と小学校教育が円滑に接続されることにより、子どもたちの充実した学校生活に、ひいては、より豊かな人間性と高い学力を身に付けることにつながっていきます。



アプローチカリキュラム 作成のイメージ

事前

それまでの子どもの姿から、強み・弱みが何であるかを考える。そこから、幼児期の終わりまでに育てたい子どもの姿を考える。

手順 1

主な経験内容を確認し、取り入れたい活動が展開できるような環境構成を考える。

手順 2

年長児の思いや願いを理解し、年長児が主体的に活動を展開できるように援助していく。

スタートカリキュラム 作成のイメージ

事前

年長児の経験内容や活動を保育者から聞き取る。入学前に保育を参観する機会を作り、活動内容や保育者の援助、環境構成について解説をしてもらいながら、保育の様子を見る。

手順 1

保育者から聞き取りをした年長児の実態を考慮し、1年生に合うカリキュラムになるよう編成を考える。

手順 2

1年生の思いや願いを理解し、主体的に学ぶことができるようにしていく。

適切に作成・活用されている接続カリキュラムとは…

接続カリキュラムの作成に当たっては、次のような点に留意しましょう。

- 目指す子どもの姿や育てたい力が明確である。市町村で強調したい視点が明確である。
- 柱立てやより詳細な視点が、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの両方に位置付けられており、つながり（接続）が明示されている。
- カリキュラムに、交流・連携計画、環境構成や授業の工夫（朝の楽しい時間の設定・モジュール）、援助・支援や指導の工夫・配慮、家庭との連携、特別支援教育の視点等が位置付けられている。
- 実践事例など具体例が提示され、柱立てやより詳細な視点に沿って考察されている。事例の中で保幼小のつながりを示す工夫がされており、子どもの育ちや学びのつながり（協同性、学びの芽生え等）が見えやすい。

例：事例での保幼小のつながりを示す欄の設定、柱立てに沿った保幼小の事例・単元のつながりを分かりやすく紹介

特別支援教育の充実に向けて

「落ち着きがない」「集中できない」「カッとしやすい」など、「気になる子ども」がいませんか。「気になる行動には理由があり、子どもが困っている」という視点で、支援をしていきましょう。

例えば、「1日の流れや予定を示す」「心の落ち着く場所を作る」「活動を分かりやすく、説明を明確にする」「温かい言葉掛けをする」など、一人一人を大切にす支援を心掛けてみましょう。

個別の教育支援計画等を作成し、活用しましょう

「個別の教育支援計画」は、障害者基本計画に示される「個別の支援計画」（※1）のうち、教育機関が中心となって作成する、関係機関の連携による乳幼児期から学校卒業後まで一貫した支援を行うための教育的支援の目標や内容等を盛り込んだ計画です。一人一人の状況に応じて個別の教育支援計画をもとにした丁寧な引継ぎにより、切れ目のない支援を行っていくことが大切です。

＜作成については、各市町村にお問い合わせください。＞

※1 個別の支援計画：平成14年12月に出された「障害者基本計画」において示された「障害のある子どもの発達段階に応じて、関係機関が適切な役割分担の下に、一人一人のニーズに対応して適切な支援を行う計画」のこと。

幼児教育施設

保護者と、どんな情報をどのように引き継ぐか、相談することが大切です。

- ・個別の教育支援計画等（就学支援ファイル）
- ・保育所児童保育要録（写し）
- ・幼稚園幼児指導要録（写し）
- ・幼保連携型認定こども園園児指導要録（写し）

※ 参考 「個別の教育支援計画活用ガイドブック」(平成30年3月,茨城県教育委員会)

小学校

受け取った情報を踏まえ、保護者と相談しながら小学校での指導に生かしていくことが大切です。

新しい学校生活がスムーズに始まるように、保護者の不安や願い、幼児教育施設での指導内容等を小学校へ伝えていきましょう。

茨城県教育委員会では、特別支援教育巡回相談員や特別支援教育専門家の派遣のほか、ホームページ上で特別支援教育に関する情報提供を行っています。お気軽にお問い合わせください。

茨城県教育委員会 特別支援教育課

検索

茨城県には「茨城県家庭教育を支援するための条例」があります。

平成28年12月に「茨城県家庭教育を支援するための条例」が公布・施行されました。家庭教育を支援していくために、皆様のご協力をお願いいたします。

茨城県家庭教育を支援するための条例

検索

家庭教育支援資料をぜひご活用ください。

- すくすく育てはじめの一步（0～3歳の子をもつ保護者向け）
- 家庭教育ブックひよこ（3～5歳の子をもつ保護者向け）
- 家庭教育ブック（就学前～小学4年生の子をもつ保護者向け）
- 家庭教育ブックつばさ（小学4～6年生の子をもつ保護者向け）

家庭教育応援ナビ



【参考文献】

埼玉県教育委員会 「接続期プログラム」

福井県教育委員会 「学びをつなぐ 希望のバトン カリキュラム」

高知県教育委員会 教育センター 平成26年度 研究報告書

【お問い合わせ】

〒310-8588 茨城県水戸市笠原町978番6 茨城県教育庁就学前教育・家庭教育推進室

電話 029-301-5132 FAX 029-301-5134 URL : <http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/>